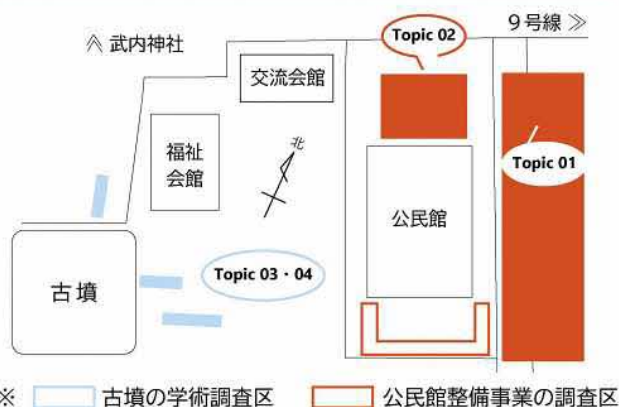


竹矢公民館を掘る

作成日：令和6年9月18日 作成：松江市 文化スポーツ部 埋蔵文化財調査課

竹矢 松江市
八幡鹿島山遺跡の発掘調査を実施中！
ここでは遺跡調査の様子や、
調査成果についてレポートします！



Topic

01 発掘体験を実施しました

8月7日（水）、竹矢小学校6年生の希望者を対象に、発掘体験を実施しました。当日は7名の方に参加いただき、皆さん一生懸命発掘を行いました。炎天下の中でしたが、土器片のほか、黒曜石や碧玉などの石器も出土し、遺物に付いた土を丁寧に洗い落とす作業まで行って、体験を終了しました。

今回の発掘体験を通して、地域の歴史について少しでも興味を持ってもらえれば嬉しく思います。



写真 発掘体験の様子

Topic

02 多量に出土した黒曜石

調査区内からは多くの土器のほかに、石器類も出土しています。中でも目を引くのが多量に出土した黒曜石の石器です。多くは打ち欠いた欠片（剥片）ですが、矢じり（石鏃）の完成品や、製作途中段階の石器も見つかりました。石鏃は縄文～弥生時代において、主に狩猟具として利用された道具です。剥片の大きさはどれも2cm程度で、石鏃と同じくらいの大きさの剥片が集中的に出土することから、これらの剥片は石鏃を作るための素材であったり、打ち欠いていく過程で生じた細かな欠片であると考えられ、この遺跡近辺で石器を製作していたことが予想されます。



写真 出土した黒曜石製の石器

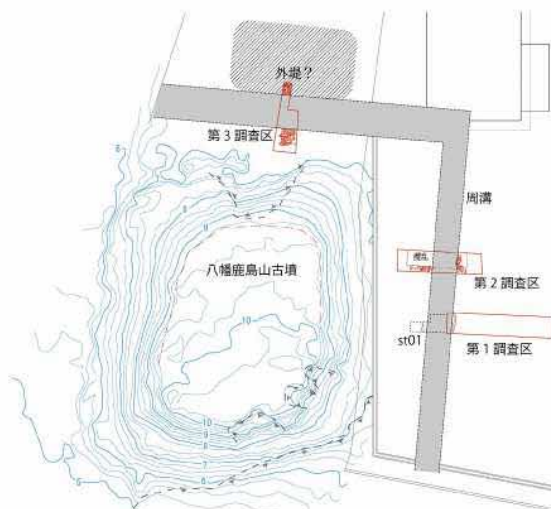
Topic

03 古墳の大きさを確認しました

古墳の調査では、3ヶ所の調査区からそれぞれ墳丘の端部と周溝を確認することができました。南側や西側の状況は不明ですが、現状では一辺 40m 程度の大きさになると考えられます。

築造時期については T3 で出土した円筒埴輪の特徴から、古墳時代中期前半の 5 世紀前半（およそ 1600 年前）であることが分かりました。

今年度の調査はこれで終了となりました。これからは今回の調査成果をさらに詳しく検討していくことになります。



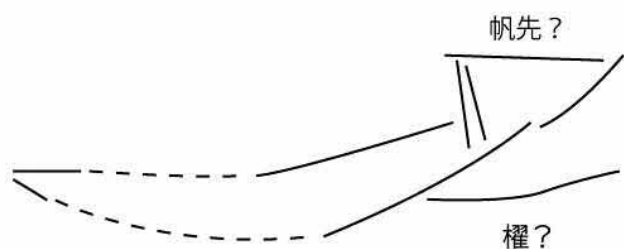
八幡鹿島山古墳

Topic

04 船の描かれた埴輪を発見

古墳の調査では多くの円筒埴輪が出土しましたが、その中に線刻によって描かれた絵をもつ埴輪も含まれていました。一部確認できていない部分もありますが、下図の右側がおそらく帆先であり、その下にある横棒は櫂（かい、オールみたなもの）になるのでしょうか。このように船を描いた埴輪は近畿地方を中心に全国各地で出土していますが、当古墳のものはそのどれとも似ておらず、類例の発見が待たれます。

ところで、なぜ船の絵が埴輪に描かれたのでしょうか。古代において船は人々の交流や移動において重宝されましたが、それ以上に靈魂を保持して運搬するものとしての特別な価値がつけられていました。当時の人々は死後に海の彼方にある世界に行くという死生観を持っており、それを表現したのと考えられています。



出土した円筒埴輪と船の絵

お問い合わせ

松江市役所 文化スポーツ部 埋蔵文化財調査課 発掘調査係（松江市末次町 86 番地）
TEL 0852-55-5293 FAX 0852-55-5571